

令和 5 年度
奄美〈環境文化〉教育・基幹プログラム
募集要項

国立大学法人 鹿児島大学

高等教育研究開発センター 生涯学習部門

目次

奄美〈環境文化〉教育・基幹プログラム 募集要項

I. 教育プログラムの主旨	2
II. 教育プログラムの目的	2
III. 募集について	
1. 募集人員	3
2. 受講のための資格	3
3. 受講料	3
4. 受講方法	3
IV. 受講について	3
V. 申請・選考方法について	
1. 申請期間	4
2. 申請方法	4
3. 申請内容	4
4. 選考方法	4
5. 受講決定	4
VI. 教育プログラムについて	
1. 開講式・ガイダンス	5
2. 開講期間	5
3. 総受講時間数	5
4. 教育プログラムの構成とレポート課題について	5
VII. その他	
1. 修了証書について	5
2. 個人情報の取り扱いについて	5
3. 問い合わせ先	5
VIII. 資料	
1. WEB 版「受講申請書」設問項目	6
2. 科目一覧表	7
3. 授業スケジュール	8
4. シラバス(講義概要)	9-35

『奄美〈環境文化〉教育・基幹プログラム』募集要項

I. 基幹プログラムの主旨

この教育プログラムでは、奄美の〈環境文化〉を深く理解し、その地域資源としての価値を高め、持続的に利活用するためのマインド、並びに基礎的な知識とスキルを身につけます。奄美群島の自然・歴史・文化を体系的に学び直すことの意味は、様々な経験を積んだ社会人がその歩みを一度止め、これまでを振り返り、仲間や講師らとの語らいにより自身や島のこれからの方向性を見定めていけるところにあります。また、本基幹プログラムは、次の発展的な学びを通して、奄美の〈環境文化〉の価値を社会に実装（事業化）していくことが期待されています。

II. 教育プログラムの目的

奄美群島は今、奄美大島と徳之島が世界自然遺産に登録されたことで、かつてないほどの注目を集め、奄美群島が自立的発展を遂げる上でまたとないチャンスを迎えています。この好機を生かすには、外から押し寄せる変化の波を的確に受け止め、島民自身が、奄美群島の価値や魅力を見つめ直し、何を守り、また何を変えていくのかを考え、選択し、行動していくことが大切になってきます。

奄美群島には、「高い島(山の島)」と「低い島(台地の山)」と表現されるように、島やシマ(集落)ごとに個性ある自然・地理特性があり、奄美群島特有の歴史のなかで、自然環境をうまく利用しながら育んできた豊かな生活文化があります。奄美群島の価値と魅力は、世界自然遺産に登録された 2 つの島からのみ理解できるものではありません。奄美群島には、固有の自然環境や歴史によって培われ、自然とともによりよく生きるための知恵や技、自然と人を大切にする奄美の心が今なお息づいています。この奄美の自然と歴史によって育まれてきた「環境文化」の価値を再評価し、次世代につなぐ暮らしを創造していくことが期待されます。

本基幹プログラムは、奄美群島に在住、もしくは、移住予定の方を対象に、自分たちの住む島・シマ(集落)の地域特性を奄美の「環境文化」という考え方から捉え直し、その価値を生かした新たな仕事を生みだしたり、生活や地域の課題を創造的に解決していくための支援を目的に4か月間にわたる遠隔授業と対面授業（主に現地実習）を計画的に実施するものです。

なお、本事業は、鹿児島県大島支庁、奄美群島広域事務組合、奄美群島振興開発基金、鹿児島労働局(ハローワーク)等の協力により実施します。

Ⅲ. 募集について

1. 募集人員 25 名 ※定員を超える応募があった場合は書類選考を行います。
2. 受講のための資格 以下の①～④のすべての条件を満たす者
 - ① 奄美群島の在住者、もしくは、移住予定者
 - ② 開講する科目のすべての授業(2島の現地実習含む)を受講できる者
 - ③ 就業・転職・起業を希望する者、もしくは、仕事に生かすことを目的とする者
 - ④ 年齢・学歴不問
3. 受講料 無料 ※ただし、実習に係る旅費及び保険料等の実費負担あり。
奄美大島と与論島を会場に実施する「奄美環境文化実習」の参加が必要です。(現地までの交通手段及び宿泊場所は、各自で手配してください。)
4. 受講方法 受講方法は、以下の4つの形態があります。
 - ① 動画視聴型授業
予め動画に記録された講義動画を受講生が好きな時間に視聴する講義形態
 - ② 課題提出型授業
事前に提示する課題に各自で取り組み、レポートを提出する方法の講義形態
 - ③ ライブ授業
講師と受講生、受講生同士がオンライン上で、意見交換しながら受講する講義形態
(WEB 会議システム Zoom アプリを使います)
 - ④ 対面授業
指定された会場において、講師と受講生が直接会って実施する講義形態。具体的は、2日～3日間連続で実施する現地実習、並びに5つ島を会場にオンラインでつなぐ講義(修了課題2)のことを指す。

Ⅳ. 受講について

e-learning 学習管理システム『eden』(<https://eden.ac/>) を利用。※各種連絡も含む

1. インターネット環境が整っている(データ通信料は無制限が望ましい)。
2. 講義の時間帯にインターネットに接続し、使用できるパソコンやタブレット端末がある(スマートフォンの使用は推奨しない)。
3. パソコンの基本操作ができる。(文字入力・ファイルのダウンロード、アップロード・インターネットの検索・メールの送受信など)
4. オンラインで行う「ガイダンス」に参加できる(WEB 会議システム Zoom を使用)。
5. 受講に当たってのルールを順守できる。

台風等の自然災害や新型コロナウイルス感染症の影響により実施が困難な場合は、
延期、もしくは、中止する場合があります

V. 申請・選考方法について

1. 申請期間

令和5年6月2日（金）10時から、令和5年6月9日（金）16時まで

2. 申請方法

申請は、インターネットでのみ受け付けます。

申請期間になりましたら、以下の URL（鹿児島大学高等教育研究開発センター生涯学習部門 HP）からオンラインで申請してください。

<https://www.life.kagoshima-u.ac.jp/2023>



3. 申請内容

WEB 版「受講申請書」に必要事項を記入してください。※5 ページに設問項目見本があります。

4. 選考方法

定員を超える応募があった場合は、書類選考を行います。選考基準は、受講理由や地域のバランス等を総合的に判断します。

5. 受講決定

令和5年6月12日（月）以降に申請者本人に通知（メール配信）します。

VI. 教育プログラムについて

1. 開講式・ガイダンス 令和5年6月17日(土) 14 時～ オンライン開催

※終了後、15 時 30 分から第 1 回の講義があります。

2. 開講期間 令和5年6月17日(土)～令和 5 年10月7日(土)

3. 総受講数 70時間(基礎科目 46時間+実習科目 24 時間)

4. 教育プログラムの構成とレポート課題について

本教育プログラムは、下記の 5 つの科目群より構成されています。各科目群の理解を助けることを目的に、その後の質疑応答と意見交換を前提としたレポート課題を課します。

- ① 文化と歴史から読み解く環境文化
- ② 自然から読み解く環境文化
- ③ 環境文化の創造と協働形成
- ④ 環境文化を体験する
- ⑤ 実生活につながる環境文化

VII. その他

1. 修了証書について

奄美環境文化実習を除く科目の総時間数の 8 割以上を受講した者に対しては、修了証書を発行します(奄美環境文化実習の 2 科目は必ず受講すること)。

2. 個人情報の取り扱いについて

申請に際し、記入いただいた個人情報は、受講申請の確認、連絡、名簿作成、受講期間中の修学支援、研修時の保険加入、受講者の統計以外の目的に使用いたしません。

3. 問い合わせ先

〒890-0065 鹿児島市郡元 1-21-30

国立大学法人鹿児島大学 高等教育研究開発センター 生涯学習部門 リカレント教育担当係

Tel: 099-285-7122

Mail: manabi@life.kagoshima-u.ac.jp

ホームページ <https://www.life.kagoshima-u.ac.jp/amami/2023>



Ⅷ. 資料

1. WEB 版 受講申請書【設問項目】

※申請は WEB サイト内の申込みフォームから行っていただきます。→

1) 申込者情報	・氏名(フリガナ) ・年齢 ※未成年者の場合は保護者の同意が必要です。 ・性別 ・郵便番号、住所 ・電話番号1、電話番号2、メールアドレス ・最終学歴 ・奄美群島の在住歴(合計年数) ・奄美群島の在住場所(市町村をすべてお書きください)
2) 受講について	・受講希望理由 (選考の対象となりますので、なるべく詳しく書いてください。) ・プログラムを知ったきっかけ
3) 受講環境	・パソコンの有無 ・通信環境 光回線ケーブル/テレビ回線/ADSL/モバイル Wi-Fi/その他 ・パソコンスキル パソコンの基本操作ができる(文字入力・ファイルのダウンロード、アップロード・インターネット検索・メール送受信など)/microsoft の word や excel、もしくは、他の同等のアプリケーションが利用できる。/ホームページの作成ができる。 (「基本的な html タグの知識がある」を「ある程度できる」の基準とする)

2. 科目一覧表

	科目番号	科目名	時間数	講義形態	開催日	時間	講師	講師の所属
文化と歴史から読み解く環境文化	101	奄美の環境文化入門	1.5	ライブ授業	6/17(土)	15:30-17:00	小栗有子	鹿児島大学法文学部
	102	奄美の環境文化の基礎1	1.5	動画視聴	6/17(土)～7/1(土)	—	高梨修	元奄美市立奄美博物館
	103	奄美の環境文化の基礎2	1.5	動画視聴	6/17(土)～7/1(土)	—	高梨 修	元奄美市立奄美博物館
	104	奄美の環境文化の基礎3	1.5	動画視聴	6/17(土)～7/1(土)	—	高梨 修	元奄美市立奄美博物館
	105	環境文化総合討論1	2	ライブ授業	7/4(火)※夕方	19:00-21:00	高梨 修 小栗有子	元奄美市立奄美博物館 鹿児島大学法文学部
自然から読み解く環境文化	106	奄美の暮らしを支える自然1(水域生態系)	1.5	動画視聴	6/21(水)～7/9(日)	—	山本智子	鹿児島大学水産学部
	107	奄美の暮らしを支える自然2(森林生態系)	1.5	動画視聴	6/21(水)～7/9(日)	—	鶴川 信	鹿児島大学農学部
	108	環境文化総合討論2	1.5	ライブ授業	7/11(火)※夜間	19:00-20:30	山本智子 鶴川 信	鹿児島大学水産学部 鹿児島大学農学部
	109	奄美群島国立公園から読み解く島々の個性	1.5	動画視聴	6/21(水)～7/9(日)	—	則久雅司	環境省自然環境局国立公園課
	110	奄美の地形から島の生い立ちを読む	1.5	ライブ授業	6/21(水) 6/21(水)～7/9(日)	—	井村隆介	鹿児島大学共通教育センター
	111	環境文化総合討論3	1.5	ライブ授業	7/14(金)※夜間	19:00-20:30	則久雅司 井村隆介	環境省自然環境局国立公園課 鹿児島大学共通教育センター
環境文化の創造と協働形	112	生涯学習支援論1	3	ライブ授業	7/22(土)※夕方	15:00-18:00	酒井祐輔	鹿児島大学法文学部
	113	生涯学習支援論2	1.5	ライブ授業	8/23(水)※夜間	19:00-20:30	酒井祐輔	鹿児島大学法文学部
	114	社会教育経営論1	1.5	動画視聴	7/25(金)～8/6(日)	—	小栗有子	鹿児島大学法文学部
	115	社会教育経営総合討論1	2	ライブ授業	8/8(火)※夜間	19:00-21:00	小栗有子	鹿児島大学法文学部
	116	社会教育経営論2	1.5	動画視聴	8/21(月)～9/4(月)	—	小栗有子	鹿児島大学法文学部
	117	社会教育経営総合討論2	1.5	ライブ授業	9/6(水)※夜間	19:00-20:30	小栗有子	鹿児島大学法文学部
環境文化を体験する	118	奄美環境文化実習事前学習1	1.5	課題提出型授業	7/13(木)～7/22(土)	—	高梨 修	元奄美市立奄美博物館
	119	奄美環境文化実習事前学習2	1	ライブ授業	7月25日(火)	19:30-20:30	高梨 修 小栗有子	元奄美市立奄美博物館 鹿児島大学法文学部
	120	奄美環境文化実習1(奄美大島)	12	現地実習	7/29(土)～7/30(日)	—	高梨 修 新元一文 小栗有子	元奄美市立奄美博物館 一般社団法人巡めぐる恵めぐる 鹿児島大学法文学部
	121	奄美環境文化実習事前学習3	1.5	課題提出型授業	8/7(月)～8/16(水)	—	南 勇輔	与論町教育委員会
	122	奄美環境文化実習2(与論島)	12	現地実習	8/18(金)～8/20(日)	—	高梨 修 南勇輔 小栗有子	元奄美市立奄美博物館 与論町教育委員会 鹿児島大学法文学部
	123	奄美環境文化総合討論4	2	ライブ授業	8月31日(木)※夜間	19:00-21:00	高梨修 小栗有子	元奄美市立奄美博物館 鹿児島大学法文学部
	124	修了課題1(環境文化を実装するために)	3	ライブ授業	9/9(土)※夕方	15:00-18:00	小栗有子ほか	鹿児島大学法文学部
実生活に環境文化を つなげる	125	経済の視点から考える環境文化	1.5	動画視聴	9/6(水)～9/18(月)	—	馬場武 佐野雅昭	鹿児島大学法文学部 鹿児島大学水産学部
	126	経済の視点から考える環境文化討論	1.5	ライブ授業	9/20(水)※夜間	19:00-20:30	馬場武 佐野雅昭 小栗有子	鹿児島大学法文学部 鹿児島大学水産学部 鹿児島大学法文学部
	127	修了課題2(環境文化を実装するために)	3	島教室・ライブ授業	9/23(土)※午後	14:00-17:00	小栗有子ほか	鹿児島大学法文学部
	128	課題発表(環境文化を実装するために)	3	ライブ授業	10/7(土)※午後	13:30-16:30	小栗有子ほか	鹿児島大学法文学部

基幹プログラム:文化と歴史から読み解く環境文化					
科目名	奄美の環境文化入門	科目番号	101	時間数	1.5 時間
担当講師	小栗有子				
所属・職名	鹿児島大学法文学部・准教授				
目的・内容	講義の目的は、奄美の「環境文化」の概要を解説することを通して、奄美の「環境文化」の意義とその可能性について理解を深め、これからの学習(残りの講義)に備えることです。 講義では、 ①「環境文化」概念が登場する背景 ②「環境文化」をめぐるこれまでの取組 ③「環境文化」の今後の可能性の三つの観点から論じます。				
受講方法	☒ライブ授業 ZOOM アプリを使ったリアルタイム同時配信・参加型の授業です。マイクで声を出せる環境をご準備ください。カメラで顔を出せる環境も推奨します。(ZOOM のID は、『eden』のお知らせ機能を通じて、通知します)				
事前に読んでおく授業の理解の手助けになる図書	養老孟司・C・W ニコル・兼高かおるほか『屋久島 知の巨人たち ムック』キルティ株式会社、2022。鹿児島大学鹿児島環境学編『奄美大島の100人 100 の環境文化』南方新社(近刊)。				
自己紹介	専門は、社会教育学と環境教育学です。社会環境だけでなく、自然環境との関わりが人の成長(自己形成)に与える作用について研究しています。奄美との出会いは 2010 年からで、環境問題をテーマに奄美の方との共同研究や学習機会の創出に従事してきました。活動の一端は、次に紹介されています。 https://kagoshima-kankyogaku.jimdosite.com/				
受講生へ一言	奄美の「環境文化」は、静的なものではなく、過去から現在にかけて変容し、これからも創造し続けるものだと思います。奄美の「環境文化」を切り口にして、奄美群島のことを深く理解し、豊かな島・シマづくりに向けて仲間と一緒に考えていける場にしていただけたらと思っています。皆さんとの一期一会の出会いを楽しみにしております。				

基幹プログラム:文化と歴史から読み解く環境文化					
科目名	奄美の環境文化の基礎 1	科目番号	102	時間数	1.5 時間
担当講師	高 梨 修				
所属・職名	元奄美市立奄美博物館長				
目的・内容	講義の目的として、奄美出身者であるかどうか関係なく、「奄美入門」として奄美群島の位置づけを俯瞰的に理解できるようになることをめざします。そして、奄美群島の社会や文化の特徴を理解するための気づきを育み、地域の課題解決に繋げていく視点や、観光や産業に応用できるような付加価値を考える視点に繋げられるようにしていきます。そのための方法論として、「環境文化」という考え方を学習していきます。その考え方を奄美群島という舞台で展開させて、各島における自然・歴史・文化を俯瞰的に解説していきます。「基礎1」では、奄美群島の自然的環境を中心に講義を行います。奄美群島と括られる島嶼地域について、その気候、地形、地質等の生態基盤を俯瞰的に概観して、奄美群島の各島の個性、それぞれの島における自然的環境と人の暮らしの関わりについて考えていきます。				
受講方法	☒ 動画視聴 e ラーニング学習管理システム(LMS)『eden』から視聴してください。 ※視聴期間は、スケジュール表を確認してください。				
事前に読んでおく授業の理解の手助けになる図書	・奄美市立奄美博物館編、『博物館が語る奄美の自然・歴史・文化』、南方新社、2021 年 ・小野寺浩、『世界遺産 奄美』、南方新社、2022 年 ・小野寺浩、「文化環境論という考え方―奄美という地域について―」、『スタディレポート』No.14、プレック研究、2009 年 http://www.prec.co.jp/research/report/pdf/14008.pdf				
自己紹介 受講生へ一言	専門分野は、歴史学、文化生態学です。奄美・沖縄地域を主要フィールドとしながら、自然的、歴史的環境がどのような文化や社会を醸成してきたのか、主に環境文化論、境界領域論、健康生成論を勉強しています。 東京生まれの東京育ちですが、沖縄通いは 40 年、奄美大島暮らしは 30 年が経過しました。地域博物館の学芸員として、分野にとらわれず、「奄美を知る手がかり」となる資料や事象の認識を常に心がけ、調査研究を続けてきました。 奄美・沖縄 4 島が、世界自然遺産に登録されて、今後の奄美における地域振興や文化観光は、どのような取り組みが必要となるのでしょうか。その際に、奄美の特徴の理解を助け、取り組みを支援してくれる考え方が「環境文化論」です。奄美群島について、その魅力や可能性、あるいは地域の課題等を、みなさんと一緒に考えることができればと思います。新しいブランディングにも取り組んでいきましょう。 「環境文化論」の主役は、奄美で暮らしているあなた自身です。				

基幹プログラム:文化と歴史から読み解く環境文化					
科目名	奄美の環境文化の基礎 2	科目番号	103	時間数	1.5 時間
担当講師	高 梨 修				
所属・職名	元奄美市立奄美博物館長				
目的・内容	講義の目的として、奄美出身者であるかどうか関係なく、「奄美入門」として奄美群島の位置づけを俯瞰的に理解できるようになることをめざします。そして、奄美群島の社会や文化の特徴を理解するための気づきを育み、地域の課題解決に繋げていく視点や、観光や産業に応用できるような付加価値を考える視点に繋がられるようにしていきます。そのための方法論として、「環境文化」という考え方を学習していきます。その考え方を奄美群島という舞台で展開させて、各島における自然・歴史・文化を俯瞰的に解説していきます。 「基礎2」では、奄美群島の歴史的環境を中心に講義を行います。奄美群島の旧石器時代から現代まで、約3万年にわたる歴史を通時的に辿るところから、日本歴史を理解する上で欠かせないとされる奄美群島の特徴的な歴史をクローズアップさせていきます。そして、そうした歴史的環境と人の暮らしの関わりについて考えていきます。				
受講方法	☒ 動画視聴 e ラーニング学習管理システム(LMS)『eden』から視聴してください。 ※視聴期間は、スケジュール表を確認してください。				
事前に読んでおく授業の理解の手助けになる図書	・奄美市立奄美博物館編、『博物館が語る奄美の自然・歴史・文化』、南方新社、2021 年 ・松下志朗・下野敏見編、街道の日本史 55『鹿児島島の湊と薩南諸島』、吉川弘文館、2002 年 ・高梨修、「知られざる奄美諸島史のダイナミズムー奄美諸島の考古資料をめぐる新しい解読作業の試み」、『沖縄文化研究』27、法政大学沖縄文化研究所、2001年 https://core.ac.uk/download/pdf/223202932.pdf				
自己紹介	科目番号102と同じ。				
受講生へ一言	科目番号102と同じ。				

基幹プログラム:文化と歴史から読み解く環境文化					
科目名	奄美の環境文化の基礎 3	科目番号	104	時間数	1.5 時間
担当講師	高 梨 修				
所属・職名	元奄美市立奄美博物館長				
目的・内容	講義の目的として、奄美出身者であるかどうか関係なく、「奄美入門」として奄美群島の位置づけを俯瞰的に理解できるようになることをめざします。そして、奄美群島の社会や文化の特徴を理解するための気づきを育み、地域の課題解決に繋げていく視点や、観光や産業に応用できるような付加価値を考える視点に繋がられるようにしていきます。そのための方法論として、「環境文化」という考え方を学習していきます。その考え方を奄美群島という舞台で展開させて、各島における自然・歴史・文化を俯瞰的に解説していきます。 「基礎3」では、奄美群島の文化的環境を中心に講義を行います。奄美群島として括られる島嶼地域の文化について、その等質性と異質性に注意しながら概観していきます。奄美群島で暮らしているみなさんの立ち位置を確認して、自分たちの環境文化に向き合ってみることをめざします。				
受講方法	☒ 動画視聴 e ラーニング学習管理システム(LMS)『eden』から視聴してください。 ※視聴期間は、スケジュール表を確認してください。				
事前に読んでおく授業の理解の手助けになる図書	・奄美市立奄美博物館編、『博物館が語る奄美の自然・歴史・文化』、南方新社、2021 年 ・基俊太郎、『島を見直す』、南海日日新聞社、1993 年 ・高梨修、「レジリエンス生み出す奄美群島の「環境」」、第60回記念黎明館企画特別展図録『ほこらしや奄美 海と山の織り成すシマの世界』、鹿児島県歴史・美術センター黎明館、2021年				
自己紹介	科目番号102と同じ。				
受講生へ一言	科目番号102と同じ。				

基幹プログラム:文化と歴史から読み解く環境文化					
科目名	環境文化総合討論1	科目番号	105	時間数	2時間
担当講師	小栗有子・高梨 修				
所属・職名	鹿児島大学法文・准教授 奄美市立奄美博物館・元館長				
目的・内容	本講義は、奄美の環境文化入門(101)、奄美の環境文化の基礎1～3(102、103、104)の受講を踏まえた総合講義です。4つの科目を受講してわからなかったことや疑問等について、リアルタイムで直接解説するとともに、これらの講義を通して共通理解を深めるための意見交換を行います。講義の目的は、4つの科目について疑問を解消し、理解の定着をはかることです。				
受講方法	☒ ライブ授業 ZOOM アプリを使ったリアルタイム同時配信・参加型の授業です。 マイクで声を出せる環境をご準備ください。カメラで顔を出せる環境も推奨します。 (ZOOM のID は、『eden』のお知らせ機能を通じて、通知します)				
事前に読んでおく授業の理解の手助けになる図書	奄美の環境文化入門(101)、奄美の環境文化の基礎1～3(102、103、104)を必ず受講した上で、これらの科目の参考 図書を参照してください。				
自己紹介	自己紹介は、101、102をそれぞれ参照してください。				
受講生へ一言	奄美の環境文化入門(101)以外は、動画視聴型講義ですので、この講義を通して、受講生の皆さんとリアルタイムで直接対話できることを講師一同楽しみにしております。講師同士の対話もぜひ楽しんでいただければと思います。				

基幹プログラム:自然から読み解く環境文化					
科目名	奄美の暮らしを支える自然1(水域生態系)	科目番号	106	時間数	1.5 時間
担当講師	山本 智子				
所属・職名	鹿児島大学水産学部・教授				
目的・内容	講義の目的は、海岸の様々な場所に生息する生物を通して、奄美における陸と海の間を俯瞰することです。 講義では、①黒潮が奄美群島の気候と森林植生に与える影響、②河川の影響を受ける沿岸生態系とそこに生息する生物の特徴、③沿岸生態系を維持する仕組み(生物相を中心に)とその危機、についてお話しします。				
受講方法	☒ 動画視聴 e ラーニング学習管理システム(LMS)『eden』から視聴してください。 ※視聴期間は、スケジュール表を確認してください。				
事前に読んでおく授業の理解の手助けになる図書	『奄美大島の水生生物』鹿児島大学生物多様性研究会 南方新社、2019 『南西諸島の生物多様性、その成立と保全』日本生態学会編 南方新社、2015				
自己紹介	専門は動物生態学で、様々な生態系において複数種の集まり「群集」が、その環境とどのように関わって成立しているのかを明らかにする研究を行っています。 奄美では、マングローブや干潟を調査地として、移動力の少ない底生動物(貝類や甲殻類などの無脊椎動物)を中心に、野外での調査を行っています。				
受講生へ一言	奄美の海岸と言えばサンゴ礁が代表的ですが、より浅い場所では、陸域と海域のつなぐ生物たちの営みが見られます。河川の多い奄美大島では重要な生態系ですが、一方で、人間による活動の影響を受けやすい場所でもあります。このような場の価値に少しでも目を向けて頂ければ幸いです。				

基幹プログラム:自然から読み解く環境文化					
科目名	奄美の暮らしを支える自然(森林生態系)	科目番号	107	時間数	1.5 時間
担当講師	鵜 川 信				
所属・職名	農学部 農林環境科学科・准教授				
目的・内容	講義の目的は、奄美の森林生態系の概要説明を通して、奄美の自然の価値とその可能性について理解を深めることです。講義は、①奄美の森林生態系の成り立ち、②普遍的価値としての固有種の存在、③固有種の保全と人々の暮らしの3つに焦点を当てて森林生態系の説明を行います。				
受講方法	☒ 動画視聴 e ラーニング学習管理システム(LMS)『eden』から視聴してください。 ※視聴期間は、スケジュール表を確認してください。				
事前に読んでおく授業の理解の手助けになる図書	特にありません。				
自己紹介	専門は、森林生態学と育林学です。森林に生育する樹木の生態や物質循環、人工林の造成について研究しています。奄美・徳之島では、2012 年から研究をスタートし、森林の維持機構や希少種の生息環境、外来種の駆除方法について研究を進めてきました。また、2020 年より、奄美大島の世界自然遺産地域における自然環境モニタリングシステムの構築に携わっています。				
受講生へ一言	奄美の森林生態系は、普遍的な価値を持つ固有種の存続に欠かせないものであるとともに、水や空気など多くの天然資源を地域にもたらしてくれます。これらの自然を守り、一方で、利用し、共生していくことが地域の未来、そして、人間社会の未来に繋がる取り組みになります。奄美の森林生態系を基盤とした社会創成の可能性を皆さんと探し、話し、共有できることを楽しみにしています。				

基幹プログラム:自然から読み解く環境文化					
科目名	環境文化総合討論2	科目番号	108	時間数	1.5 時間
担当講師	山本 智子 鵜川 信				
所属・職名	鹿児島大学水産学部・教授 鹿児島大学農学部・准教授				
目的・内容	本講義は、奄美の自然と暮らし1(水域生態系)(106)、奄美の自然と暮らし2(森林生態系)(107)の受講を踏まえた総合講義です。2つの科目を受講してわからなかったことや疑問等について、リアルタイムで直接解説するとともに、これらの講義を通して共通理解を深めるための意見交換を行います。講義の目的は、2つの科目について疑問を解消し、理解の定着をはかることです。				
受講方法	☒ ライブ授業 ZOOM アプリを使ったリアルタイム同時配信・参加型の授業です。 マイクで声を出せる環境をご準備ください。カメラで顔を出せる環境も推奨します。 (ZOOM のID は、『eden』のお知らせ機能を通じて、通知します)				
事前に読んでおく授業の理解の手助けになる図書	奄美の自然と暮らし1(水域生態系)(106)、奄美の自然と暮らし2(森林生態系)(107)を必ず受講した上で、これらの科目の参考図書を参照してください。				
自己紹介	自己紹介は、106、107をそれぞれ参照してください。				
受講生へ一言	疑問やわからないことがあれば、是非この講義でお尋ねください。講師一同、受講生の皆さんと対話できることを楽しみにしております。				

基幹プログラム:自然から読み解く環境文化					
科目名	奄美群島国立公園から読み解く島々の個性	科目番号	109	時間数	1.5 時間
担当講師	則久雅司				
所属・職名	環境省自然環境局国立公園課長				
目的・内容	2017年 3 月、奄美群島国立公園が指定されました。島々の個性ある自然景観は国立公園に指定され、そのうち、奄美大島と徳之島の森林地帯は2021年7月に世界自然遺産に登録されています。奄美群島では世界自然遺産が注目されがちですが、国立公園は、元来、来訪者に非日常の感動体験を与える傑出した自然の風景地であり、島々によって異なる自然景観は、各島の重要な観光資源・文化資源でもあります。 国立公園は、1931年の発足以降、指定の対象となる自然風景も時代の要請を受けて多様化してきています。最も新しい国立公園である奄美群島は、1974年指定の奄美群島国立公園の区域を大幅に拡充して指定されましたが、そこにも評価される風景の多様化が背景にあります。また、奄美群島国立公園の指定にあたっては、「生態系管理型」と「環境文化型」という2つの理念が設定されました。奄美群島の国立公園指定に至る歴史的変遷を振り返るとともに、各島々の個性を読み解いていきたいと思います				
受講方法	☒ 動画視聴 e ラーニング学習管理システム(LMS)『eden』から視聴してください。 ※視聴期間は、スケジュール表を確認してください。				
事前に読んでおく授業の理解の手助けになる図書	「世界遺産 奄美」 小野寺浩 著 南方新社 2022 年 「生物多様性鹿児島県戦略」 鹿児島県 2014 年 3 月 https://www.pref.kagoshima.jp/ad04/kurashikankyo/kankyo/tayousei/senryaku02.html 「鹿児島の 100 人100の風景」 鹿児島県環境林務部自然保護課、鹿児島大学鹿児島環境学研究会、2013 年				
自己紹介	1967 年香川県生まれ、1992 年に環境庁に自然保護系技官(レンジャー)として入庁し、国立公園や世界自然遺産の保護管理、外来生物法制定や自然公園法改正、野生鳥獣管理、外来種対策、希少種保護、鳥インフルエンザ対策、ペット等の動物愛護管理、福島環境再生事業などに関わってきました。鹿児島県庁には、2011 年 7 月から2015 年3月まで自然保護課長として勤務しました。奄美群島は非常に心に残る思い出ばかりで、東京では、黒糖焼酎のお店に同僚や友人を誘うのが趣味となっています。				
受講生へ一言	環境文化の原点は、西洋近代文明がかつて否定してきたアニミズム的自然観、つまり自然との共生と言われる思想にあると考えています。その共生思想を、日常の中に受け継いでいる社会が奄美群島にあるのではないかと考えています。個人的に考えてきた私論も御紹介しつつ、自然と環境文化の関わりを考えていただくきっかけにしたいと思います。				

基幹プログラム:自然から読み解く環境文化					
科目名	奄美の地形から島の生き立ちを読む	科目番号	110	時間数	1.5 時間
担当講師	井村隆介				
所属・職名	鹿児島大学共通センター・准教授				
目的・内容	奄美群島の豊かな自然環境は一朝一夕にできたものではなく、そこにいる生物も含めて長い時間をかけてつくられてきたものです。奄美の人々の暮らし、文化や伝統もそれらを背景に育まれてきたものです。この講義では、みなさんがふだん見慣れている地形や風景から、奄美群島の島の生き立ちを読み解くことをしてみたいと思います。				
受講方法	☒ ライブ授業&動画視聴 ZOOM アプリを使ったリアルタイム同時配信授業です。 (ZOOM のID は、『eden』のお知らせ機能を通じて、通知します) ※講義を録画し、e ラーニング学習管理システム(LMS)『eden』でも視聴できます。				
事前に読んでおく授業の理解の手助けになる図書	井村隆介(2010)奄美諸島の地形を読む,「鹿児島環境学II」鹿児島大学鹿児島環境学研究会(編), 南方新社. 尾方隆幸・井村隆介(2018)琉球弧の地形,「奄美群島の野生植物と栽培植物」鹿児島大学生物多様性研究会(編), 南方新社.				
自己紹介	鹿児島大学共通教育センター准教授。1964年大阪府生まれ。鹿児島大学理学部、東京都立大学大学院で学ぶ。博士(理学)東京都立大学。 専門は地質学。大学で地形学・災害地質学などを教えながら、人間の時間・空間スケールで見た地震と噴火現象の研究、自然災害で死なないための研究を続ける。				
受講生へ一言	奄美群島の地形・地質の特徴とその生き立ちについて、それぞれの島々を比較しながら考えてみましょう。明日から、その風景の見え方が変わってくるはずです。				

基幹プログラム：自然から読み解く環境文化					
科目名	環境文化総合討論3	科目番号	111	時間数	1.5 時間
担当講師	則久 雅司 井村隆介				
所属・職名	環境省環境省自然環境局国立公園課長 鹿児島大学共通教育センター・准教授				
目的・内容	本講義は、奄美群島国立公園から読み解く島々の個性(109)、奄美の地形・地図の読み方(110)の受講を踏まえた総合講義です。2つの科目を受講してわからなかったことや疑問等について、リアルタイムで直接解説するとともに、これらの講義を通して共通理解を深めるための意見交換を行います。講義の目的は、2つの科目について疑問を解消し、理解の定着をはかることです。				
受講方法	☒ ライブ授業 ZOOM アプリを使ったリアルタイム同時配信・参加型の授業です。 マイクで声を出せる環境をご準備ください。カメラで顔を出せる環境も推奨します。 (ZOOM のID は、『eden』のお知らせ機能を通じて、通知します)				
事前に読んでおく授業の理解の手助けになる図書	奄美群島国立公園から読み解く島々の個性 (109)、奄美の自然・地理の読み方と地図(110) を必ず受講した上で、これらの科目の参考図書を参照してください。				
自己紹介	自己紹介は、109、110 をそれぞれ参照してください。				
受講生へ一言	疑問やわからないことがあれば、是非この講義でお尋ねください。講師一同、受講生の皆さんと対話できることを楽しみしております。				

基幹プログラム:環境文化の創造と協働形成					
科目名	生涯学習支援論 1	科目番号	112	時間数	3
担当講師	酒井 佑輔				
所属・職名	法文学部法経社会学科・准教授				
目的・内容	生涯学習支援論1は、奄美の「環境文化」について地域から学ぶための技法について「傾聴」や「対話」、「ファシリテーション」等のキーワードから掘り下げて考えます。グループワークを行いますので、Zoom でのビデオカメラをオンにし、声を出ることができる環境での受講をお願いします。				
受講方法	☒ オンライン討議 ZOOM アプリを使ったリアルタイム同時配信・参加型の授業です。 マイクで声を出せる環境をご準備ください。カメラで顔を出せる環境も推奨します。 (ZOOM のID は、『eden』のお知らせ機能を通じて、通知します)				
事前に読んでおく 授業の理解の手助け になる図書	東山紘久『プロカウンセラーの聞く技術』創元社、2000。 ・中田豊一『対話型ファシリテーションの手ほどき』ムラのミライ、2015。 ・安斎勇樹・塩瀬隆之『問いのデザイン 創造的対話のファシリテーション』学芸出版社、2020。 ・ケネス・J・ガーゲン、メアリー・ガーゲン『現実はいつも対話から生まれる』ディスカヴァー・トゥエンティワン、2018。 ・パウロ・フレイレ『伝達か対話かー関係変革の教育学』垂紀書房、1982。 ・ケイト・マーフィー『LISTEN——知性豊かで創造力がある人になれる』日経 BP、2021。				
自己紹介	専門は社会教育、地域研究(ブラジルアマゾン)で、鹿大では「社会教育実習Ⅱ」、「多文化共生の地域づくり」「地域づくりと NPO」「海外研修(ブラジル)」等の授業を担当しています。県内では鹿児島県社会教育委員やかごしま外国人材受入活躍推進会議委員等を務めています。				
受講生へ一言	受講いただく皆さんの奄美に関する課題意識や、環境文化の価値に対する思いから多くを学ばせていただきたいと思います。よろしくお願いします。				

基幹プログラム:環境文化の創造と協働形成					
科目名	生涯学習支援論2	科目番号	113	時間数	1.5
担当講師	酒井 佑輔				
所属・職名	法文学部法経社会学科・准教授				
目的・内容	生涯学習支援論2では、生涯学習支援論 1 で学んだ内容を踏まえたうえで環境文化実習の振り返りを行います。グループワークを行いますので、Zoom でのビデオカメラをオンにし、声を出することができる環境での受講をお願いします。				
受講方法	☒ オンライン討議 ZOOM アプリを使ったリアルタイム同時配信・参加型の授業です。 マイクで声を出せる環境をご準備ください。カメラで顔を出せる環境も推奨します。 (ZOOM のID は、『eden』のお知らせ機能を通じて、通知します)				
事前に読んでおく授業の理解の手助けになる図書	東山紘久『プロカウンセラーの聞く技術』創元社、2000。 ・中田豊一『対話型ファシリテーションの手ほどき』ムラのミライ、2015。 ・安斎勇樹・塩瀬隆之『問いのデザイン 創造的対話のファシリテーション』学芸出版社、2020。 ・ケネス・J・ガーゲン、メアリー・ガーゲン『現実はいつも対話から生まれる』ディスカヴァー・トゥエンティワン、2018。 ・パウロ・フレイレ『伝達か対話かー関係変革の教育学』垂紀書房、1982。 ・ケイト・マーフィー『LISTEN——知性豊かで創造力がある人になれる』日経 BP、2021。				
自己紹介	専門は社会教育、地域研究(ブラジルアマゾン)で、鹿大では「社会教育実習Ⅱ」、「多文化共生の地域づくり」「地域づくりと NPO」「海外研修(ブラジル)」等の授業を担当しています。県内では鹿児島県社会教育委員やかごしま外国人材受入活躍推進会議委員等を務めています。				
受講生へ一言	受講いただく皆さんの奄美に関する課題意識や、環境文化の価値に対する思いから多くを学ばせていただきたいと思います。よろしくお願いします。				

基幹プログラム:環境文化の創造と協働形成					
科目名	社会教育経営論 1	科目番号	114	時間数	1.5時間
担当講師	小栗有子				
所属・職名	鹿児島大学法文学部法経社会学科・准教授				
目的・内容	本講義は、6つの科目(112～117)から構成される「環境文化の創造と協働形成」科目群の導入的講義となります。この本科目群では、奄美の〈環境文化〉を「社会と人」の観点から理解を深め、その特徴は、奄美の〈環境文化〉を継承するという視点に留まらず、新たに創造するという視点を重視することです。〈環境文化〉の創造は、一人ではできませんので、「協働形成」という営みが必要となります。この「協働形成」に必要な考え方や方法について本科目群では、社会教育の理念や原理を通して理解していきます。本講義は、その導入として、奄美群島の社会動向について社会経済指標等を参照しながら概観し、その特徴を確認します。そのうえで、地域開発や自立的発展という観点から奄美群島を捉え直し、「地元学」の観点から〈環境文化〉の担い手(創り手)について理解を深めます。				
受講方法	☒ 動画視聴 e ラーニング学習管理システム(LMS)『eden』から視聴してください。 ※視聴期間は、スケジュール表を確認してください。				
事前に読んでおく 授業の理解の手助け になる図書	鹿児島大学鹿児島環境学編『鹿児島環境学Ⅱ』南方新社、2010 吉本哲郎『地元学を始めよう』岩波ジュニア新書、2008 結城登美雄『地元学からの出発』農文協、2009 山本珠美・熊谷慎之輔・松橋義樹編『社会教育経営の基礎』学文社、2021				
自己紹介	101 と同じ。				
受講生へ一言	奄美の〈環境文化〉の価値を高めることと島・シマの発展をどのように結びつけて、考えればよいのでしょうか。また、そのことを考え、実行していく際に留意したほうがよいことは何でしょうか。このような問いについて、日本や奄美の開発の歴史を振り返りながら皆さんと一緒に考えてきたいと思います。				

基幹プログラム:環境文化の創造と協働形成					
科目名	社会教育経営総合討論1	科目番号	115	時間数	2 時間
担当講師	小栗有子				
所属・職名	鹿児島大学法文学部法経社会学科・准教授				
目的・内容	本講義は、社会教育経営論1の受講を踏まえた総合講義です。社会教育経営論1を受講してわからなかったことや疑問等について、リアルタイムで直接解説するとともに、講義内容を踏まえた受講生同士で意見交換を行います。また、すでに終えた「奄美環境文化実習1」(120)について振り返るとともに、これから実施する「奄美環境文化実習2」(122)に向けた解説と参加者同士の交流の時間を設けます。				
受講方法	☒ライブ授業 ZOOM アプリを使ったリアルタイム同時配信・参加型の授業です。マイクで声を出せる環境をご準備ください。カメラで顔を出せる環境も推奨します。(ZOOM のID は、『eden』のお知らせ機能を通じて、通知します)				
事前に読んでおく授業の理解の手助けになる図書	鹿児島大学鹿児島環境学編『鹿児島環境学Ⅱ』南方新社、2010 吉本哲郎『地元学を始めよう』岩波ジュニア新書、2008 結城登美雄『地元学からの出発』農文協、2009 山本珠美・熊谷慎之輔・松橋義樹編『社会教育経営の基礎』学文社、2021 鹿児島大学鹿児島環境学編『奄美大島の100人 100 の環境文化』南方新社(近刊)				
自己紹介	自己紹介は 101 と同じ。				
受講生へ一言	プログラムの折り返し地点で実施するライブ授業です。「社会教育経営論1」で取り上げた内容を題材するとともに、受講生の皆さんが実習で感じたことや学んだことも持ち寄りながら、これまでの学びの確認しながら、次のステップに進むことができればと思っています。				

基幹プログラム:環境文化の創造と協働形成					
科目名	社会教育経営論 2	科目番号	116	時間数	1.5 時間
担当講師	小栗有子				
所属・職名	鹿児島大学法文学部法経社会学科・准教授				
目的・内容	本講義は、社会教育経営論1(114)と社会教育経営総合討論1(115)のなかで十分言及できなかった社会教育の理念や考え方、法や制度の基礎基本について解説します。そのうえで、奄美の<環境文化>の価値を高め、仕事や生活に生かしていくことや、そのために求められる「協働形成」と社会教育との関係についてお話したいと思います。講義では、行政との連携や住民同士の協働形成を促すための知識や方法について親しむことを目的としています。講義では、地域における学びを促進する役割が期待される社会教育士(称号)についても紹介したいと思います。				
受講方法	☒動画視聴 e ラーニング学習管理システム(LMS)『eden』から視聴してください。 ※視聴期間は、スケジュール表を確認してください。				
事前に読んでおくと授業の理解の手助けになる図書	山本珠美・熊谷慎之輔・松橋義樹編『社会教育経営の基礎』学文社、2021 渡邊洋子『生涯学習時代の成人教育学』明石書店、2002 社会教育士については、以下のURLを紹介しておきます。 https://www.mext.go.jp/a_menu/01_l/08052911/mext_00667.html				
自己紹介	自己紹介は 101 と同じ。				
受講生へ一言	これまでの講義で学んできたことを実践に移していくときに参考になるような講義にできればと思っています。聞きなれないことも少なくないと思いますが、分からないことは、社会教育経営総合論2で解消していきましょう！				

基幹プログラム:環境文化の創造と協働形成					
科目名	社会教育経営総合討論2	科目番号	117	時間数	1.5 時間
担当講師	小栗有子				
所属・職名	鹿児島大学法文学部法経社会学科・准教授				
目的・内容	本講義は、社会教育経営論2(116)の受講を踏まえた総合講義です。社会教育経営論2を受講してわからなかったことや疑問等について、リアルタイムで直接解説するとともに、実施した「奄美環境文化実習1」(120)と「奄美環境文化実習2」(122)の振り返り、受講生同士の交流の時間を設けます。				
受講方法	☒ ライブ授業 ZOOM アプリを使ったリアルタイム同時配信・参加型の授業です。 マイクで声を出せる環境をご準備ください。カメラで顔を出せる環境も推奨します。 (ZOOM のID は、『eden』のお知らせ機能を通じて、通知します)				
事前に読んでおく 授業の理解の手助け になる図書	吉本哲郎『地元学を始めよう』岩波ジュニア新書、2008 結城登美雄『地元学からの出発』農文協、2009 山本珠美・熊谷愼之輔・松橋義樹編『社会教育経営の基礎』学文社、2021 鹿児島大学鹿児島環境学編『奄美大島の100人 100 の環境文化』南方新社(近刊) 渡邊洋子『生涯学習時代の成人教育学』明石書店、2002				
自己紹介	自己紹介は 101 と同じ。				
受講生へ一言	プログラムを通して受講生の皆さんが学んだことや考えたことを振り返りながら、修了課題につなげていける時間にできればと思っています。				

基幹プログラム:環境文化を体験する					
科目名	奄美環境文化実習事前学習1	科目番号	118	時間数	1.5 時間
担当講師	高梨 修				
所属・職名	奄美市立奄美博物館・元館長				
目的・内容	奄美大島・徳之島の2島は世界自然遺産登録を果たし、その前提として奄美群島は日本初の環境文化型国立公園にも指定されました。今後、奄美大島・徳之島では、歴史的に経験がない規模の観光客を受け入れていくことになり、それに伴い、奄美群島全域の地域振興策も議論、試行されていくと思います。 わたしたちが、地域において活動をしていく際には、その地域に暮らしている人びとに関わらざるを得ません。その際には、地域の人びとの心情や生活、人間関係になんらかの影響、負担を与えかねない危険が常につきまといます。 わたしたちは、自己都合を優先しがちになります。地域活動における「倫理」とはいかにあるべきなのか、みなさんと一緒に考えていきます。				
受講方法	☒ 課題提出型授業 e ラーニング学習管理システム(LMS)『eden』か課題を確認して、期日までに資料を読み、レポートを提出してください。				
事前に読んでおく授業の理解の手助けになる図書	課題読み物(edenから各自ダウンロードしてください) ・須山 聡、2021、「発見ではなく、確認 考察「小湊の滝」、南海日日新聞 参考論文(興味がある人はぜひ読んでみてください) ・石川 良子、2013、「調査倫理の一步目―調査する側とされる側の関係から考える―」、『社会と調査』第11号、一般社団法人社会調査協会 https://jasr.or.jp/asr/11/ ・菅 豊、2018、「フィールドワークの宿痼―公共民俗学者・宮本常一がフィールドに与えた「迷惑」」、『社会人類学年報』44、弘文堂 https://onl.la/Zgh19KC				
自己紹介	自己紹介は、102、103 104に同じ。				
受講生へ一言	専門分野は、歴史学、文化生態学です。奄美・沖縄地域を主要フィールドとしながら、自然的、歴史的環境がどのような文化や社会を醸成してきたのか、主に環境文化論、境界領域論、健康生成論を勉強しています。 東京生まれの東京育ちですが、沖縄通いは40年、奄美大島暮らしは30年が経過しました。地域博物館の学芸員として、分野にとらわれず、「奄美を知る手がかり」となる資料や事象の認識を常に心がけ、調査研究を続けてきました。 奄美・沖縄4島が、世界自然遺産に登録されて、今後の奄美における地域振興や文化観光は、どのような取り組みが必要となるのでしょうか。その際に、奄美の特徴の理解を助け、取り組みを支援してくれる考え方が「環境文化論」です。奄美群島について、その魅力や可能性、あるいは地域の課題等を、みなさんと一緒に考えることができればと思います。新しいブランディングにも取り組んでいきましょう。 「環境文化論」の主役は、奄美で暮らしているあなた自身です。				

基幹プログラム:環境文化を体験する					
科目名	奄美環境文化実習事前学習2	科目番号	119	時間数	1 時間
担当講師	高梨 修				
所属・職名	奄美市立奄美博物館・元館長				
目的・内容	「奄美環境文化実習」(120)の参加を終えて、改めて「奄美の環境文化の基礎1～3」の講義に立ち戻り、基礎1(自然)、基礎2(歴史)、基礎3(文化)ふまえたうえで現地の実習で確認しておきたい内容等の解説を行います。				
受講方法	☒ ライブ授業 ZOOM アプリを使ったリアルタイム同時配信・参加型の授業です。 マイクで声を出せる環境をご準備ください。カメラで顔を出せる環境も推奨します。 (ZOOM のID は、『eden』のお知らせ機能を通じて、通知します)				
事前に読んでおくと授業の理解の手助けになる図書	・宇検村、伊仙町、奄美市歴史文化基本構想等策定専門委員会編、2011、『宇検村・伊仙町・奄美市による歴史文化基本構想』、宇検村・伊仙町・奄美市 https://www.city.amami.lg.jp/bunka/documents/rekishibunka.pdf 「第3章 奄美遺産(関連文化財群)の抽出と情報整理」が参考になります。				
自己紹介	自己紹介は、102に同じ。				
受講生へ一言	科目118に同じ。				

基幹プログラム:環境文化を体験する					
科目名	奄美環境文化実習(奄美大島)	科目番号	120	時間数	12 時間
担当講師	高梨 修 新元 一文 小栗有子				
所属・職名	奄美市立奄美博物館・元館長 一般社団法人巡めぐる恵めぐる 鹿児島大学法文学部法経社会学科・准教授				
目的・内容	講義の目的は、座学で学んだ奄美の「環境文化」について、巡検(フィールドワーク)による身体感覚を通して理解を深め、島・シマ(集落)ごとの特性や固有の価値を見出し、表現できることです。実習では、「環境文化」の読み方を実地で学び、「環境文化」の生成過程とその継承・断絶・再創造の条件や意味について検討します。また、島やシマ(集落)の若手経営者らとの交流、並びに、受講生同士の交流を通して、出身の島や自己理解について認識を深めます。 実習の内容は、島の特徴的な自然地理条件のスポットをバスで巡り、生活文化とのかかわりを確認し、方言・芸能・生業等の「環境文化」を体験します。また、シマの方とのふれあい(聞き取り調査含む)を通して、目に見えない「環境文化」の存在に触れる一方で、「環境文化」を事業に結びつけて活躍する方の経験に学び、意見交換を行います。				
受講方法	☒ 現地研修 対面での現地実習で、2 日間連続の合宿形式です。				
事前に読んでおくと授業の理解の手助けになる図書	すでに受講した科目について、復習をしておくことをお勧めします。				
自己紹介	自己紹介は、101、102に同じ。				
受講生へ一言	この実習は、対面で実施する唯一の機会であり、島・シマ(集落)の方々とはもちろんのこと、受講生同士の貴重な交流の機会でもあります。皆さんにとって素敵な出会いの詰まった実習になることを願っています。				

基幹プログラム:環境文化を体験する					
科目名	奄美環境文化実習(与論町)	科目番号	122	時間数	12 時間
担当講師	高梨 修 南 勇輔 小栗有子				
所属・職名	奄美市立奄美博物館・元館長 与論町教育委員会 学芸員 鹿児島大学法文学部法経社会学科・准教授				
目的・内容	講義の目的は、座学で学んだ奄美の「環境文化」について、巡検(フィールドワーク)による身体感覚を通して理解を深め、島・シマ(集落)ごとの特性や固有の価値を見出し、表現できることです。実習では、「環境文化」の読み方を実地で学び、「環境文化」の生成過程とその継承・断絶・再創造の条件や意味について検討します。また、島やシマ(集落)の若手経営者らとの交流、並びに、受講生同士の交流を通して、出身の島や自己理解について認識を深めます。 実習の内容は、島の特徴的な自然地理条件のスポットをバスで巡り、生活文化とのかかわりを確認し、方言・芸能・生業等の「環境文化」を体験します。また、シマの方とのふれあい(聞き取り調査含む)を通して、目に見えない「環境文化」の存在に触れる一方で、「環境文化」を事業に結びつけて活躍する方の経験に学び、意見交換を行います。				
受講方法	☒ 現地研修 対面での現地実習で、3 日間連続の合宿形式です。				
事前に読んでおく授業の理解の手助けになる図書	すでに受講した科目について、復習をしておくことをお勧めします。				
自己紹介	自己紹介は、101、102、121に同じ。				
受講生へ一言	この実習は、対面で実施する唯一の機会であり、島・シマ(集落)の方々とはもちろんのこと、受講生同士の貴重な交流の機会でもあります。皆さんにとって素敵な出会いの詰まった実習になることを願っています。				

基幹プログラム:環境文化を体験する					
科目名	環境文化総合討論 4	科目番号	123	時間数	2 時間
担当講師	小栗有子 高梨 修				
所属・職名	鹿児島大学法文学部法経社会学科・准教授 奄美市立奄美博物館・元館長				
目的・内容	本講義は、奄美環境文化実習(120と122)を踏まえた総合講義です。2つの島をめぐり、各自が経験したことを改めて振り返り、受講者と共有します。 また、実習を通してわからなかったことや疑問等について解消するとともに、奄美の「環境文化」を捉える視点やその特徴を確認し、奄美の「環境文化」のブランディングの可能性と課題について検討します。				
受講方法	☒ ライブ授業 ZOOM アプリを使った同時配信・参加型の授業です。 マイクで声を出せる環境をご準備ください。カメラで顔を出せる環境も推奨します。 (ZOOM のID は、『eden』のお知らせ機能を通じて、通知します)				
事前に読んでおく授業の理解の手助けになる図書	奄美環境文化実習関連の資料等に再度目を通すようにしてください。				
自己紹介	自己紹介は、101、102に同じ。				
受講生へ一言	「奄美環境文化実習」で見聞・体験してきたことをあらためて確認する時間に行いましょう。				

基幹プログラム:実生活につなげる環境文化					
科目名	修了課題 1・環境文化を実装するために	科目番号	124	時間数	3 時間
担当講師	小栗有子				
所属・職名	鹿児島大学法文学部法経社会学科・准教授				
目的・内容	既に学び終えた①文化と歴史から読み解く環境文化、②自然から読み解く環境文化、③環境文化の創造と協働形成、④環境文化を体験するまでを受けて、いざ各自の仕事(キャリア)や暮らしにこれまでの学びをいかに生かすことができるのか。その前提として、この 4 か月の学びから何を得たのか。本講義は、これまでの講義を振り返り、獲得したマインド、知識、スキルを確認します。 そのうえで、各自が本プログラムを通して発見した奄美「環境文化」の価値を確認し、その生かし方について考えをまとめ、自己表現するための準備を行います。ここでいう自己表現とは、作成した図や文章を用いて、自分の考えを第三者に伝えられることを意味し、修了課題のことを指します。 本講義の目的は、これからの作業内容(科目 127、128)について理解し、各自の考えや理解を整理していくための見通しをもつことです。講義は、自己の振り返りと受講生同士の意見交換を中心に進め、これまで講義を担当した講師陣も適宜参加します。				
受講方法	☒ ライブ授業 ZOOM アプリを使った同時配信・参加型の授業です。 マイクで声を出せる環境をご準備ください。カメラで顔を出せる環境も推奨します。 (ZOOM のID は、『eden』のお知らせ機能を通じて、通知します)				
事前に読んでおく授業の理解の手助けになる図書	プログラム開始後、講師より提示します。				
自己紹介	自己紹介は 101 に同じ。				
受講生へ一言	プログラムを通して学んだことを仲間の力も借りながら整理し、次のステップに進んでいけるようにしましょう！				

基幹プログラム:実生活につながる環境文化					
科目名	経済の視点から考える環境文化	科目番号	125	時間数	1.5時間
担当講師	馬場 武 佐野雅昭				
所属・職名	鹿児島大学法文学部・講師 鹿児島大学水産学部・教授				
目的・内容	本講義は、奄美の「環境文化」を島の経済という観点からその意味や可能性について考えることが目的です。講義では、奄美群島の自立的発展という側面から地域資源としての「環境文化」に光を当て、資本主義経済の中でその地域資源を利活用することの意味や問題を取り上げます。また、経済競争の中における離島という位置の特性を流通という視点から確認します。そのうえで、島のこれからの経済的発展の方向性とそこにおける「環境文化」の可能性について、受講生と一緒に考えていきます。				
受講方法	☒ 動画視聴 ZOOM アプリを使った同時配信・参加型の授業です。 マイクで声を出せる環境をご準備ください。カメラで顔を出せる環境も推奨します。 (ZOOM のID は、『eden』のお知らせ機能を通じて、通知します) ※視聴期間は、スケジュール表を確認してください。				
事前に読んでおく授業の理解の手助けになる図書	馬場武:特に事前の知識は必要ありません。参考文献等ありましたら、講義内で紹介します。				
自己紹介	馬場武:専門は情報と知識の経営学およびマーケティングマネジメントです。地域資源の価値創造に関心があります。幼少の少しの間ですが、奄美で過ごしました。				
受講生へ一言	今回新たに開設するこの講義は、とても楽しみにしている科目の一つです。奄美の「環境文化」は、島の経済発展にどのように寄与することができるのか。地域に根ざした研究を続ける経営学者と経済学者と本音で一緒に語りましょう！				

基幹プログラム:実生活につながる環境文化					
科目名	経済の視点から考える環境文化	科目番号	126	時間数	2時間
担当講師	馬場 武・佐野雅昭・小栗有子				
所属・職名	鹿児島大学法文学部・講師 鹿児島大学水産学部・教授 鹿児島大学法文学部・准教授				
目的・内容	本講義は、奄美の「環境文化」を島の経済という観点からその意味や可能性について考えることが目的です。講義では、奄美群島の自立的発展という側面から地域資源としての「環境文化」に光を当て、資本主義経済の中でその地域資源を利活用することの意味や問題を取り上げます。また、経済競争の中における離島という位置の特性を流通という視点から確認します。そのうえで、島のこれからの経済的発展の方向性とそこにおける「環境文化」の可能性について、受講生と一緒に考えていきます。				
受講方法	☒ ライブ授業 ZOOM アプリを使ったリアルタイム同時配信・参加型の授業です。 マイクで声を出せる環境をご準備ください。カメラで顔を出せる環境も推奨します。 (ZOOM のID は、『eden』のお知らせ機能を通じて、通知します)				
事前に読んでおくと授業の理解の手助けになる図書	プログラム開始後、講師より提示します。				
自己紹介	自己紹介は、101、125 に同じ。				
受講生へ一言	今回新たに開設するこの講義は、とても楽しみにしている科目の一つです。奄美の「環境文化」は、島の経済発展にどのように寄与することができるのか。地域に根ざした研究を続ける経営学者と経済学者と本音で一緒に語りましょう！				

基幹プログラム:実生活につながる環境文化					
科目名	修了課題 2・環境文化を実装するために	科目番号	127	時間数	3 時間
担当講師	小栗有子 奄美<環境文化>教育の各島の修了生ほか				
所属・職名	鹿児島大学法文学部法経社会学科・准教授				
目的・内容	本講義は、科目 124 に引き続き、プログラムを通して考えたことや学んだことを整理し、それらを各自の仕事(キャリア)や暮らしにどのような結びつけていくのかを検討する時間です。本講義は、奄美群島の 5 つの島を会場(対面)にして、会場同士をオンラインでつなぎます。各会場には、令和3 年度に当該教育プログラムを修了した第 1 期生と第2期生も参集し、各々の活動紹介もしながら、島毎、島同士の交流を深めます。				
受講方法	☒ 島会場・ライブ授業 各島に対面の会場を設けて、島同士をZOOM アプリでつなぎ、リアルタイム同時配信・参加型の授業を行います。 詳細は、『eden』のお知らせ機能を通じて、通知します。				
事前に読んでおく授業の理解の手助けになる図書	プログラム開始後、講師より提示します。				
自己紹介	自己紹介は 101 に同じ。				
受講生へ一言	この講義は、奄美群島の各島(奄美大島、喜界島、徳之島、沖永良部島、与論島)にお住まい、もしくは、活動されている方々とリアルに出会う機会となります。昨年度当該プログラムを受講したメンバーも集うので、新しい出会いや発見が期待できると思います。ぜひ楽しみましょう！				

基幹プログラム:実生活につなげる環境文化					
科目名	修了課題発表会	科目番号	128	時間数	3 時間
担当講師	小栗有子ほか				
所属・職名	鹿児島大学法文学部法経社会学科・准教授				
目的・内容	講義では、本教育プログラムの一つの締めくくりとして、プログラム全体を通して、また、科目 124～127 の準備期間を経て温めた各自の奄美の「環境文化」理解とそれに基づき発見した価値について紹介し、それらを仕事や暮らしへ生かしていくための発表・提案を行う。発表では、奄美「環境文化」の価値を新たな仕事づくりや生活・地域課題の解決などの創造的な解決に生かすことが期待される。				
受講方法	☒ ライブ授業 ZOOM アプリを使った同時配信・参加型の授業です。 マイクで声を出せる環境をご準備ください。カメラで顔を出せる環境も推奨します。 (ZOOM のID は、『eden』のお知らせ機能を通じて、通知します)				
事前に読んでおく授業の理解の手助けになる図書	プログラム開始後、講師より提示します。				
自己紹介	101 に同じ。				
受講生へ一言	この講義を通して、プログラム修了後も、必要な時に必要な仲間と一緒に学び続けられることのできる関係を確認できればなと思っています。本講義には、他のプログラム講師も参集予定です。				